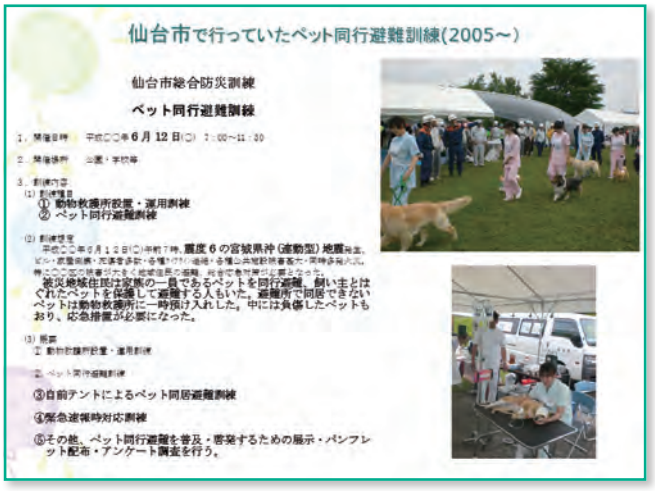

仙台市の総合防災訓練というのは、35年前に宮城県沖地震が起こった6月12日に毎年行っていましたが、その中で、7年前の2005年よりペット同行避難と動物救護所設営運用訓練を獣医師会とボランティアで行っていました。

飼い主様には災害啓発のチラシをつくりまして、災害に備えての準備をボランティアと共に婦人防火クラブや町内会、市民センター、マンション等管理組合主催の講習会の中でお話をさせてきていただいてきたところです。こういうことをしながら様々な課題が出てきたところでしたが、そんな中で平成23年3月11日あの日を迎えてしまったということになります。

さて、東日本大震災で仙台市の中ではどういう状況だったかといいますと、これが一番新しい8月31日のデータになります。動物管理センターがある宮城野区は震度6強、津波の高さは岩手県よりもかなり低いですが7.2m、市内だけでも死者･行方不明者1,001名にもなりました。建物被害としては全半壊で138,454戸、市内約3分の1の世帯が被害を受けたことになります。さらに3月11日だけではなくて、4月7日にも宮城野区は震度6強の地震がありました。余震ですが、マグニチュード5以上の余震がトータルで683回もありました。全てを飲み込み奪い去る津波の被害が特徴で、まさに史上最大想定外、未曾有の大震災でありました。その中で実態は明らかではありませんが、推定としては3分の1ということで、犬猫は2万5千頭程被災しているだろうと考えております。

既に様々なメディアで多くの映像を見ておられると思いますが、当市の広報課が震災の時に職員が撮影した写真を集めて記録集を作成しました。そのデータがありますので皆様に見ていただこうと思いまして準備してきました。動物救護からは少し外れますが非常に貴重な衝撃の写真がたくさんありますので、実際に起こったことを実感していただくために必要だと思いますので少しお時間をいただきたいと思います。

津波被害のあった、仙台市の沿岸部です。犬のマークが動物管理センターのある場所で、津波のあった場所が赤い線で示されています。今回、避難場所であった荒浜小学校や中野小学校周辺がどういう状況だったか写真を見ていただきたいと思います。この浸水地区には22,021人、8,110世帯あり、ここで登録された犬は約3,000頭いました。

※以下の震災の写真は仙台市広報課作成、“東日本大震災1年の記録”より抜粋したものです。